

能代市役所でセミナー



水素エネルギーの活用策について意見を交わす高校生

水素で地域課題どう解決

高校生が意見交わす

次世代エネルギーとして注目される水素の活用について考える「のしろ水素セミナー」が12日、能代市役所で開かれた。能代松陽高校の2年生17人が参加し、講義やグループワークを通じて水素エネルギーの現状などに理解を深めた。

市は2019年に策定した「次世代エネルギービジョン」で、水素エネルギーの活用を戦略の一つに掲げており、若者の関心を高めようとするセミナーを開催した。

講義では、水素エネルギーの活用を研究する東北大学金属材料研究所の河野龍興特任

教授が「水素は脱炭素社会実現の鍵になる」と説明。「水素エネルギーは既に日本発で実用化されている」とし、ハイブリッド自動車などに使用されているニッケル水素電池を紹介した。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所の坂本勇樹助教は、能代市の能代ロケット実験場について説

明。「液体水素を使った試験ができる設備は国内にほとんどなく、能代が国内最大規模だ」と話した。

参加した吉田光穂さんは「これまで水素をあまり身近に感じなことはなかったが、列車や船などが水素エネルギーで動く時代が近づいていると感じた」と話した。

（斎藤将典）